

1

童心

配送

家主

2

丁重

消去

追放

3

弓

わ

青

の

悲

ア

流

弓を引く

ウ

中

父を殺した

知ら

いた

3

イ

ウ

ア

江戸で

エ

エ

馬場

3

安産信仰

(記述題)

丸飲み

2

2

1

三つ目  
ウにま

三つ目  
I  
観光  
II  
個人

(3 完 答)

二つ目

5  
数  
千羽のウがつくって  
いた  
コ  
ロ  
ニ  
ー

(同意可)

配点	
1・2・3	各2点×13=26点
3	5点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

- 1 「童心にかえる」とは、大人が子どもにもどったような気持ちになったり、子どものような行動をとったりする様子をさす。
- 2 「配」は「とりへん」の部分ぶんを正しく書くこと。また、「送」の「しんしんによる」の部分ぶんを続け字つづきにしないように気をつけよう。
- 3 「家主」とは賃貸物件ちんたいぶつけんの持ち主ものこと。普段あまり目めにしないことばも、目にした時ときにおさえておこう。
- 4 「丁重」とは「礼儀正しく、手厚い」こと。「重」を「チョウ」と読む熟語じゅくごはほかに「貴重」「重宝」などがある。
- 5 「消」の四く六画目を「ツ」のように書かないように気をつけよう。
- 6 「追」の「しんしんによる」部分ぶんの字形じぎを続け字つづきにしないように気をつけよう。また、「放」の右側を「又」としないようにしよう。

2

- 1 前書きの部分や文章全体を通読してから取り組まないと何を答えるべきかつかみにくい。弓道つながりの友だちである。
- 2 A「ほのめかす」…それとなく言うこと。B「こだわる」…気持ちこころがとらわれる。Cは「非」と書かないように注意したい。Dについてもうっかり「成」としないように気をつけよう。文脈ぶんみやくをふまえ、適切なことばを答えてほしい。
- 3 文学的文章ぶんがくていを読むとき、人物関係じんぶつかんけいをおさえていくことは必須ひつとである。直後、「楓」の返答から「ふたり」に「楓」自身が含まれないことがわかり、続く「善美の祖父」との会話の中で「乙矢」と「善美」のことであると読み取ろう。
- 4 「善美の母」にとっての「嫌なこと」とは何かを考える。弓道きやうだうに関することから思い出されてしまう「嫌なこと」とは、文章後半で「乙矢」の口から語られる「父の死」であろう。あとは指定に沿って答えをさがせばよい。
- 5 一つ目の④の直後で「…それしか覚えていないから、乙矢くんの中ではおとうさんと弓道が結びついている」とあることから、「そう、僕は覚えている。お父さんが馬上で弓を引くところを」にたどりつきたい。二つ目の④にもあてはめて確認しておこう。
- 6 「乙矢」自身のとらえ方を答えることに注意しよう。「あの時」とは乙矢と善美の父が死んだ時である。「善美の母」「善美の祖父」のどちらも否定してはいるが、「乙矢」は自分の行動のせいで父が死んだ、と考えているのである。
- 7 事故当時、まだおさなかつた「乙矢」には事実を伝えず、そしてその後も事故の話題を出さないようにして「乙矢」のことを守ってきたところに、彼が「覚えている」と打ち明けてきたことでひどく驚いているのである。
- 8 物語文では、登場人物の細かな様子や行動などに注目しよう。「平然としている風」を装ってはいいても、長年心の中にしまい込んでいたことを覚悟して打ち明けることにおそれをいだいている「乙矢」の心情が、「かすかに震えていた」手に表れているのである。
- 9 「不適当なもの」を選ぶことに注意しよう。「パパは遠くに行ってしまった」という言い方によって、この場合は「父が死んだ」という事実を遠回しに伝えているのである。エは「教えるも覚えられない」が誤りである。
- 10 「乙矢」の、過去の自分の行動に対する後悔を読み取る。「乙矢」の記憶が語られる部分をたどろう。「馬場」は聞き慣れない表現かと思われるが、「弓道」「流鏑馬」といった文章の設定をもとにことばの意味を推し量ろう。

3

- 1 (A)は直後の「…とだけ」が手がかり。「ただくだけ」は、「く以外にない」という言い回しである。(B)も直後の「…はずだ」が手がかりとなる。「おそろくはず」は推量の意味を持つ言い回しである。(C)は、直前で「ウにまつわることわざ」のうち教訓的示唆、いさめる場合のことばを挙げてから、強く肯定的なことわざを挙げることで、「マイナス面を示すことわざもあるもの、ウのプラス面を生かしたこともわきも言うまでもなく存在している」という流れである。
- 2 一つ目は「鵜飼の歴史について」、二つ目は「江戸時代、江戸にはウがたくさんいたことについて」、三つ目は「ウにまつわることわざについて」であった。通読時、話題の移り変わりには細心の注意を払いたい。◎の文の形に沿って答えのイメージを作り、そこからさがし始めたい。
- 3 「漁の効率」は「よいとはいえない」ものの、それを補うだけの価値があることを続く部分から説明していた。◎の文の形に沿って答えのイメージを作り、そこからさがし始めたい。
- 4 通読の時点でも——線②の「長良川の鵜飼も千三百年以上の歴史をもつが」という書き方に注目して、並列構造を読み取ってほしいところである。「長良川の鵜飼」のほかに「千三百年の歴史」をもつものは、ここより前で述べられている「安産信仰」のみである。
- 5 指示内容自体は直前にあるが、「二十字以内」という指定に合わせてことばの組み立てを考えなければならない。「数千羽」「ウ」「コロニー」などをうまく使いたいところである。
- 6 「★より前の部分」という指定をおさえつつ、「鵜呑みにする」ということわざの意味をもとに答えをさがす。
- 7 読み終わったあとの「なんとなく」の記憶に頼らずに、本文に戻って正誤の根拠をさがす姿勢を身につけてほしい。Iは「ウミウは島や海岸線かいがんせんで暮らしている」という記述と矛盾するので誤り。IIは「ウを使った漁」では擬木の設置などについては書かれていないので誤り。IIIは江戸城付近にコロニーを作っていたのは「カワウ」と書かれていたので正しい。